

第4回 武蔵野市生涯学習計画（仮称）策定委員会会議要録

日 時	平成21年9月7日（月） 午後7時00分から9時00分	
会 場	本町コミュニティセンター	
出席者	委 員 （敬称略）	◎林大樹、○倉持伸江、飛山堪子、富川昌美、小町友則、白井龍男、 渡邊一衛、萱場和裕 （◎委員長、○副委員長）
	事務局	生涯学習スポーツ課長、スポーツ振興・国体開催準備担当副参事、 武蔵野プレイス開設準備室長、武蔵野プレイス開設準備室副参事、 （財）スポーツ振興事業団事務局長 ほか
	傍聴者	2名

【会議要録】

1 開会

2 （1）報告事項

- ・8月14日に行った社会教育委員会との意見交換会での論点ならびに主な意見交換の内容について確認。

（2）協議事項

①本計画における生涯学習施策の体系および重点施策について事務局より説明

- ・「武蔵野市生涯学習計画（仮称）体系図【案】」および基本施策ごとの事業例、重点施策について説明。
- ・基本目標1から5は、順に「学びを育む基礎づくり」、「多様に学ぶ機会の拡充」、「学びの成果の共有」、「都市型市民文化の発信」、「生涯学習社会基盤の強化」。
- ・重点施策は、「武蔵野プレイスの開設」、「武蔵野らしい市民文化の醸成」、「多様な事業主体と連携手法の検討」、「生涯学習情報の共有化」、「社会教育関係団体の活動支援の検討」と「生涯学習関係団体の活動支援の推進」の5つとする。

【委員長】 次回の策定委員会では、中間まとめをとりまとめていくことになっている。本日の策定委員会で中間まとめの方向性を出していきたい。

【倉持委員】 基本目標5「生涯学習社会基盤の強化」が他の4つの基本目標と別立てになっている理由は何か。また、基本目標や基本施策の言葉は市の他の計画などで使われている言葉なのかどうか。

【事務局】 基本目標5「生涯学習社会基盤の強化」について、前回の策定委員会では、この基盤整備の項目は全体のなかにかかる基盤整備、学びのサイクルを支えるための位置づけとしたほうが分かりやすいのではないかとのご意見をいただいた。それらのご意見をふまえ、全体を支えるものとして別立てに整理させていただいた。基本目標や基本施策の言

業については、長期計画のなかで使われている言葉や事務局レベルで検討するなかで整理したものもある。

【倉持委員】基本目標5「生涯学習社会基盤の強化」は、基本施策ごとの事業例を見ると、他の基本目標に入っている基本施策や事業との違いがあまり感じられない。理念的には分かるが複雑化しないか検討が必要だと思う。また、基本目標や基本施策の言葉については、慎重に選ぶ必要がある。特に施策の考え方はレベルの違い、混在があると思う。「支援」という言葉、煩雑な使い方や漠然としているものもある。「都市型市民文化」という言葉はどこから出てきているのか。

【事務局】「都市型市民文化」という言葉は、市の長期計画・調整計画のなかで使われている言葉である。

【渡邊委員】基本目標1から4は学習のプロセス。基本目標5は手段として基本目標1から4を支える基盤であり、両者は全く発想が違うことから分けたほうがよいということだと思う。今回、現行の事業は整理できたが、新たに考える事業はこれからである。また、重点施策は、基本目標2「多様に学ぶ機会の拡充」には入っていないが、各基本目標のなかに入っているとよい。今後、幼児から高齢者まで、ライフスタイルごとの相互の連携は促進していく必要がある。例えば、幼児と高齢者の昔遊びを通じた学び、むさしのジャンボリーのなかでの小学生と大学生、保護者の連携などのようなことが挙げられる。子どもと高齢者以外の16歳から50歳をどう巻き込んでいくか、小中学校の保護者を巻き込んでいくことなども大事。相互に学びあう、教えあう場をいかにつくれるか、多様な学習機会につながっていくことだと思う。

【小町委員】事務局が提示した重点施策について、なぜこれらが重点施策になるのか教えてほしい。

【事務局】武蔵野プレイスは、他の分野や基本施策にもかかわり、波及効果が大きいため重点施策とした。生涯学習関係団体と社会教育関係団体は、両者を個別に取り組むのではなく、一体的な支援が展開できるよう検討していく必要があることから重点施策とした。武蔵野らしい市民文化については、ジャズ、アニメーション、演劇など市民の自発的な取組が発展してきており、特徴的な取組として今後も促進されていくものと考え、重点施策とした。多様な事業手法や連携手法について、今後は市が主催する事業だけに限らず、様々な事業主体や運営手法について検討が必要であることから重点施策とした。情報共有について、市主体の事業も多様なものがあるが、情報が共有化できていないところをご指摘をいただいております、重点施策とした。

【小町委員】武蔵野プレイスや情報共有が重点施策として位置づけられることは理解できる。他の重点施策は、他の基本施策との差がよく分からない。本来の緊急度など、なぜ選んだのか考え方が分からないと重点施策と

して進めていくのも難しいのではないか。

【倉持委員】生涯学習関係団体と社会教育関係団体のところでは、「検討」という言葉も使われているが、見直しも含めて考えていくということかどうか。

【事務局】社会教育関係団体については、既存の団体支援メニューのままでよいのか、整理する必要があると思われる。

【委員長】「検討」という言葉が入っているものを重点施策とするのはどうか。「推進」など積極的な言葉が入ると重点施策としてイメージはできる。

【富川委員】「いきがい」や「子どもたちに伝えたいこと」などの切り口から基本施策を整理することも考えられる。もう少し根本的な切り口から見ていかないと重点施策が何になるかという話に入らないのでは。コストパフォーマンスなどの面から重点施策ということも考えられる。

【飛山委員】全体的にはよくまとまっている体系図だと思う。一番必要なことは市としてどういう生涯学習でありたいのかということだと思う。それが決まってくれば重点施策も定まってくると思う。

【白井委員】武蔵野プレイスは、施設名だけでなく、機能を入れて表現したほうがよいと思う。生涯学習関係団体、社会教育関係団体というカテゴリについてどのように位置づけているのか。全体的には、学ぶ、広げる、固めるなどの文言で基本目標を入れてはどうか。

【事務局】社会教育関係団体は、市に社会教育関係団体として登録している団体のことを言っている。生涯学習には、それに限らず広く市民団体等の方々の活動もあることから生涯学習関係団体として整理した。

【萱場委員】重点施策の順番について違いがあれば教えてほしい。武蔵野らしい市民文化の醸成については、他市の計画との差別化という視点から、どこで武蔵野らしさを出していくかは課題である。社会教育関係団体は行政のなかでは限定的な登録制度の位置づけとしている。施策の考え方のなかで活性化との文言があり、そぐわない面もあるが、計画の中にどのように表記していくかは検討が必要。

【事務局】重点施策の順番は、ある意味大きさをイメージしている。非常に大きなもの、重要性という意味から項目の順番を出し、続いて、手法の問題である「多様な事業主体と連携手法」や「生涯学習情報の共有化」、システムの見直しである「社会教育関係団体支援の検討」と「生涯学習関係団体支援の推進」となっている。

【富川委員】武蔵野プレイスがそれほど大きなウェイトを占めるのかどうか。

【事務局】これからの生涯学習は市民が主体で進めていくことが大切であるという考え方から、多様な事業主体との連携や団体支援につながるものを重点施策として選んでいる。基本目標2は市主催の基本施策であり、あえて重点としていない。武蔵野プレイスは、夜10時までの開館など生涯学習の拠点として今度大きな位置を占める施設となる可能性があり、財政面から見ても重点である。

②中間のまとめおよび理念について事務局より説明

- ・「武蔵野市生涯学習計画 計画書（案）」の構成について説明。中間のまとめでは、計画書（案）の構成のうち、「武蔵野市生涯学習計画（仮称）とは」、「武蔵野市の生涯学習をめぐる現状」、「生涯学習計画の施策体系と重点施策」についてとりまとめて提示する。
- ・「他の自治体の生涯学習計画 理念」について説明。理念については、これまでの議論ならびに本日いただくご意見をふまえてまとめる。

【委員長】 計画の進行管理、評価をしていく際にも理念が関係してくるので重要。他の自治体の事例は参考にはなるが、武蔵野市としてどうかということことからご意見いただきたい。

【飛山委員】「いつでも、どこでも、だれでも」が一番基本的で大切、もっと具体的な言葉にしていきたい。武蔵野らしさに関して、武蔵野は成熟しているので、社会還元に近い言葉は入れていければと思う。

【渡邊委員】キーワードは「学びあい、教えあう」という言葉。武蔵野らしさについて、多様な世代が集まっている特長を表現できるとよい。また、必要な時に必要なものが受けとれることが大切である。

【倉持委員】他市での経験からも内容に関して深い話をしっかりしたうえで決めていくべきだと思う。武蔵野市では「市民文化」という言葉も多く使われている気がする。生涯学習の最近の傾向は、学習機会を行政が用意することよりも、ある程度できたものをどうつなげるか、どう力を出し合うか、「ネットワーク」、「つながり」などの言葉もキーワードの候補になると思う。また、平成 18 年に出された社会教育委員の提言を参考にキーワードを拾うと議論が深まるのではないかな。

【富川委員】生涯学習計画の理念について、必ずしも学習や学びという言葉にこだわらなくてもよいと思う。住んでいる人が誇りを持っているということが武蔵野市の特長であり、まちづくり、人づくりという切り口からのほうが理念はつくりやすいのではないかな。

【小町委員】社会教育委員との意見交換会のなかで、「質の高い多様性のあるまち」という言葉が出ていたが、分かりやすかった。

【渡邊委員】社会教育委員の方は自分の手で武蔵野をつくりたいという想いは強い。

【委員長】 武蔵野らしさが出そうなヒントを皆様からいただいた。一つ気になっているのは、市のコミュニティ政策について、かなり先進的で独特なものであると伺っている。昭和 46 年の第 1 期基本構想・長期計画で「現代のふるさと」という表現でも語られている。伝統的共同体という意味ではなく、都市という一つの形態のなかで、市民同士がつながりを持って住んでいるまちという意味での「現代のふるさと」、コミュニティ政策をかかげていたようである。その精神が今でも発展しているの

であればそれが武蔵野ブランドにつながるのではないかとと思われる。

3 その他

- ・今後の日程および作業手順について確認した。

【委員長】 一通り意見交換したが、まとめには至っていない。次の策定委員会 10 月 23 日では、中間まとめの内容を固める必要がある。本日の策定委員会のなかで出た意見をふまえ、事務局で改めてまとめいただいたものをご提示いただきたい。9 月中に修正した原案がまとまれば、場合によって正副委員長と事務局で打合せを設けることも考えたい。

【事務局】 今月末に原案をお送りし、正副委員長との調整会議を行う方向で進めさせていただきたい。委員の皆さまには事前にメール等で資料をお送りし、ご意見をいただける形をとりたい。文言の整理はするとして、体系図と重点施策については本日の資料をベースとしたいがよろしいか。

【全員】 異議なし。

【事務局】 中間のまとめは基本施策のレベルでまとめていきたい。また、11 月以降の日程については、メール等で調整を行いたい。

4 閉会